



小野市長 所信表明

4月24日から小野市政の2期目がスタートしました。それにあたって、市議会6月定例会の初日に小野市長が所信表明を述べました。

市役所市長公室
055-948-1431

小野市長所信表明 平成29年6月9日

平成29年4月16日に執行された伊豆の国市長選挙において、多くの市民の皆様より、1期目の信任と2期目の付託をいただきました。本定例会の開会にあたり、私の2期目就任のごあいさつと所信の一端を申し述べさせていただきます。議員各位を始め、市民の皆様にも、深くご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私が市長に就任したときは、まだ合併の余韻が散見され、1つの市であるという一体感が感じられませんでした。3町合併の前に抱き描いた理想は、市が抱えている問題、課題という現実を見ると、どうしても乖離があると言わざるを得ない状態でありました。

市制10周年を経て、過去の余韻に区切りをつけ、現実を踏まえて問題や課題の解決に取り組み、3町の合体ではなく、本当の意味での1つの市という視点に切り替え、市の

行財政運営の基盤をつくること、私の1期目の使命であったと感じております。

1期目の在任期間において、100回を超える「市政懇談会」や「ふれあいトーク」を開催しました。また、市民の皆様を始めとする多くの方々とふれあい、会話を重ねる中で、垣根を越えた一体感の醸成と、職員の仕事に取り組む姿勢の変化とともに、市の変革を肌で感じておりました。

4月16日の市長選挙において、多くの市民の皆様からのご支援を賜り、引き続き市政を担わせていただくこととなりました。伊豆の国市のさらなる発展のため、気を引き締めて取り組むことを決意したところであります。

4月から、第2次伊豆の国市総合計画による市政運営がスタートいたしました。総合計画は、市の最上位に位置づけられる計画であります。この第2次総合計画は、第1次総合計画の成果と課題を踏まえ、本市の特性や時代の潮流

を捉え、市民の意向を反映して策定したところであります。

この総合計画で目指す将来像「ほんわり湯の国、美しい国、歴史文化薫る国、未来を拓く伊豆の国」の実現に向け、市政運営の7つの基本方針を定めております。「伊豆の国市の未来を拓く」という、私の熱い思いが込められている第2次総合計画を策定した市長として、その進捗を図ることが私の2期目の使命であると考え、この7つの基本方針を、私の2期目の命題として掲げさせていただきます。

少子高齢化の波は、本市にも確実に押し寄せてきています。そして、3町合併の特例措置の終了による財源不足という現実、伊豆の国市にとって大きな転換期となっていきます。このような時だからこそ、「いのちを守りたい赤ちゃんから おとしよりまで」という私の揺るぎない思いを胸に、この総合計画とともに、私の2期目の任期を全うしていきたいと考えております。

ます。

それでは、私の新7つの命題、そして、第2次総合計画の7つの基本方針に基づき、2期目の重点施策について述べさせていただきます。

伊豆の国市にしたいことを つくる

まず1つ目は、「農業・産業の振興と雇用の促進」に関する命題である「伊豆の国市にしごとをつくる」であります。この命題では「農業、観光産業、医療・福祉産業、こ

れら3つを核として、産業全体の活性化を進めるとともに、市民が期待する就業機会の確保」を目指します。この命題を推進する施策として「地域を支える人材の就労支援」に取り組みます。地元雇用の確保と若手世代や女性の活躍などの就業希望とのマッチングにより、働き手の確保と経済基盤の安定を図るとともに、新規就農者の継続的な受入れ態勢の支援や後継者育成、観光や介護を支え

る人材の確保・育成などを推進し、市内産業全体の雇用拡大を図ります。

また、「地域特産品の競争力の強化」にも取り組みます。優良農地を保全するとともに、先端技術を使い、農産物を高品質で安定的に生産できるシステムを構築します。農工商の連携を支援し、より市場競争力の高い商品開発や6次産業化、地産地消の推進を行い、市内外の販路開拓への支援とともに、地域ブランドの確立を行います。

さらに、「地域産業の活性化と新たな雇用の創出」にも取り組みます。交通アクセスに優れ、津波被害の心配はないという優位性を生かし、県機関の誘致や移転支援などによる伊豆半島の核となるまちづくりを推進します。市内企業のさらなる発展を後押しするとともに、企業誘致などにより新たな雇用を創出し、経営基盤強化の事業支援の充実を図ります。また、意欲のある市民や事業者に対する起業・創業や事業拡大に向けた

支援体制の強化を図り、空き家の活用や店舗リフォームなどにより市街地の魅力アップを推進します。

子育ても人生も楽しい 伊豆の国市

2つ目は、「医療・総合福祉施策」に関する命題である「子育ても人生も楽しい伊豆の国市」であります。この命題では「若い世代の子育てとしごとの両立を支援し、出生率の向上を目指すとともに、

人口減少の進行と高齢化の進展を踏まえ、地域全体の連携と協力のなかで、高齢者、障がい者をはじめ、誰もが自立し安心して暮らすことのできる地域社会」を目指します。この命題を推進する施策として、「結婚・出産の支援」に取り組みます。出会いや結婚を後押しする機会を拡大するとともに、結婚・妊娠・出産・育児への不安を解消し、安心して子育てができる環境づくりに取り組みます。また、「子育て環境の充実」

にも取り組みます。保健福祉・こども・子育て相談センターを中心に関係機関の連携を一層強化し、長期的で継続した子育て支援体制の充実

や、子育てを市民同士で支え合う体制の充実や親育ての環境構築を図ります。核家族化が進む中、結婚、子育てとしごとの両立のための支援策の充実や、待機児童問題への取り組み強化、保育サービスの充実により、安心して子どもを育てる環境づくりを推進します。

さらに、「健康長寿を目指すまちづくりの推進」にも取り組みます。地域が主体となった、誰もが気軽に安心して立ち寄れる居場所の創出や、高齢者が集うサロン活動などを支援し、健康長寿社会の実現を図ります。介護の担い手の育成や、個々の高齢者に合った無駄のないサービスの提供することなど、市民が自らの意思で健康増進や介護予防に積極的に取り組むことにより、健康寿命の延伸を図ります。

安全で安心な伊豆の国 市のまちづくり

3つ目は、「地域のひとびとの安全安心の取り組み」に関する命題である「安全で安心な伊豆の国市のまちづくり」であります。この命題では「災害発生を見越した防災・減災のまちづくりを進めるとともに、長期的な視点のもと、社会基盤の適切な維持管理や時代に即した更新・新設によ

り」であります。この命題では「災害発生を見越した防災・減災のまちづくりを進めるとともに、長期的な視点のもと、社会基盤の適切な維持管理や時代に即した更新・新設によ

り、持続可能なまち」を目指します。この命題を推進する施策として、「災害発生を見越した防災・減災のまちづくりと安全・安心なまちづくりの推進」に取り組みます。市民と地域が一体となった消防・防災体制の強化や、交通安全活動および防犯活動の充実、発災時の対応準備をハード・ソフト両面で推進し、災害や事故を未然に防ぐ社会基盤を計画的に整備します。

また、「持続可能なまちづくりの推進」にも取り組みます。インフラ資産の時代に即した更新、新設を行い、持続可能な都市の形成を推進します。公共施設の更新や統廃合、長寿命化の推進を図るとともに、光ファイバー網の整備の推進や、予約型乗り合いタクシー、伊豆箱根鉄道駿豆線を中心とした公共交通網の構築により、市民生活の利便性向上を図ります。

伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる

芸術・文化の推進」に関する命題である「歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市」であります。この命題では「歴史に学び、未来を拓くまちを目指すとともに、都市交流の推進により、文化・芸術活動が身近にある豊かな暮らしと、次代を担う子どもが必要な能力を身に付けるための教育環境づくり」を目指します。この命題を推進する施策として、「歴史・文化・芸術を生かしたひとづくり・まちづくりの推進」に取り組みます。歴史に学ぶまちづくりや多様な分野の都市交流を推進するとともに、文化・芸術が身近に実感できる暮らしを実現します。

また、「次代を拓く教育と研究の推進」にも取り組みます。子どもが自ら学ぶ力、他人を思いやる心、自己啓発力を育む教育を推進するとともに、社会全体で子どもを育てていく環境づくりの推進や、青少年健全育成活動、地域活動、防災教育、家庭教育などを推進することにより、郷土

4つ目は、「転入超過促進、スポーツ交流、観光のまちづくり」に関する命題である「伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる」であります。この

命題では「本市の持続的な発展を維持するため、今後も転入超過を継続できるように、移住の促進や受け入れ体制づくりを進めて定住人口の拡大を目指すとともに、世界遺産に登録された葦山反射炉をはじめとする歴史的遺産や豊かな自然環境、美しい景観などの多くの地域資源を最大限に活用することにより、観光推進体制の強化を図り、外国人旅行者を含めた観光交流人口の拡大」を目指します。この命題を推進する施策として、「移住・定住の促進」に取り組みます。シティプロモーションの展開によって市内に眠る数多くの歴史、文化、偉人などを世に出し、伊豆の国市をPRすることにより、本市の知名度を高め、移住・定住につなげます。あわせて、若年世帯の定住や住宅取得への支援や移住後のサポートなど、市

内に5つの鉄道駅を有するという優位性を生かし、駅利用の環境を整え、新幹線通勤者などへの利便性の向上を図ります。

また、「観光推進体制の強化と交流人口の拡大」にも取り組みます。伊豆の国市版DMOの構築により、地域資源を活用した新しい観光を推進するとともに、市内の観光資源の周遊性を高め、葦山反射炉の世界遺産登録効果による集客を市内全域に波及させます。さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に合わせて、市内の温泉や宿泊施設、充実した医療環境などの資源を生かしたスポーツツーリズムやヘルスツーリズムを展開し、地域に生み出される持続的な効果に結び付けていきます。伊豆半島全体での連携も推進し、多彩な観光プログラムを提供することにより、観光交流人口の拡大を図ります。

さらに、「情報発信力の強化とおもてなしの充実」にも取り組みます。情報手段の多

を愛し、郷土に貢献できる、たくましい人材を育成します。さらに、時代を拓く教育と研究の一環として、江川垣庵公の事跡を鑑み、グローバル教育・情報教育を推進するとともに、市民一人ひとりが地域との絆を深め、地域社会の発展に貢献する生涯学習社会の実現や、すべての市民が生涯にわたって健康を維持できるよう、生涯スポーツ活動を推進します。

みんなで創る伊豆の国市

7つ目は、「行政と市民のパートナーシップ」に関する命題である「みんなで創る伊豆の国市」であります。この命題では「市と市民や民間がパートナーであるという認識を深め、お互いに助け合い、誰もが暮らしやすく、そして心温まる地域づくりを目指すとともに、市民の生命と生活を支える基礎自治体としての役割を果たし、さまざまな英知を積極的に取り入れる気概

と全職員の努力による効率的

様化を図り、交流人口の増加や地域経済の活性化につなげるとともに、市内各所での公衆無線LANの設置や、公衆無線LAN利用促進ポータルサイトの構築による情報取得環境を充実させ、来訪者へのおもてなしの向上を図ります。

豊かな自然に抱かれる伊豆の国市

5つ目は、「自然と生活環境を守り、育てる」に関する命題である「豊かな自然に抱かれる伊豆の国市」であります。この命題では「豊かで美しい自然やおいしい水がある環境、美肌の湯は、本市のまちづくりの最も大切な基盤であり、市民の誇りでもあります。市と市民や民間が相互に連携し、環境意識を向上させ、これら環境の次代への継承を目指すとともに、市民や民間とともに環境負荷の少ないまちづくりを一層進めることによる、快適で潤いのある生活環境の創造」を目指しま

す。また、「快適な生活環境の創造」にも取り組みます。人と自然が共生する快適な生活環境と、花と緑にあふれる美しいまちを目指すとともに、廃棄物の減量化・再資源化・適正処理に取り組み、地球温暖化対策を計画的に実行します。

歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

6つ目は、「教育・科学・れに大いなる誇りを持ち、常に歴史のページをひもとく姿勢を持ちたい」と思っております。

多くの先人たちの、時代に前に推し進めようとする意気込みが、今の伊豆の国市のすべての基盤を成しているのです。それが現代にあって、今なお新鮮なまちとして息吹、品格あるまちを形成しつつあるのだということをしっかりと認識し、先人たちに深く感謝を捧げつつ、まちづくりにいそしんでいかなければなりません。私自身も、一からの行脚を要求されるものと自覚しております。

これからの2期目の4年間、私が持っているパワーを伊豆の国市のために全て注ぎ込んでいきたいと考えております。どうか、議員の皆様、市民の皆様におかれましては、ご支援とご協力を賜りたくお願いを申し上げます。私の2期目にあたっての、ごあいさつと所信表明とさせていただきます。

結びに

以上、私の新7つの命題、